現場百景

ロープを結び法面のフレームにコンクリートを吹き込んでいるところ。作業時にはコンクリートが飛ぶため防塵マスクをしていた（大和（8）地区）

木が茂っていたところを綺麗に除去して、今後法面が作られる（石坂（2）地区）。

こうしてロープで吊られながら鍬のような用具を使い木の根を除去していた（石坂（2）地区）。

コンクリートを送っている場所。この現場はこういうスペースが近くに取れたことが幸運だったそうだ（大和（8）地区）。

急傾斜地崩壊対策事業

――坂の町をささえるロープワーク

今から12年前、初めて長崎を訪れた際にまず驚いたのが、急傾斜地に作られた家々だ。まるで山を覆うように家が建てられており、それが「坂の町」長崎の印象として強く残った。

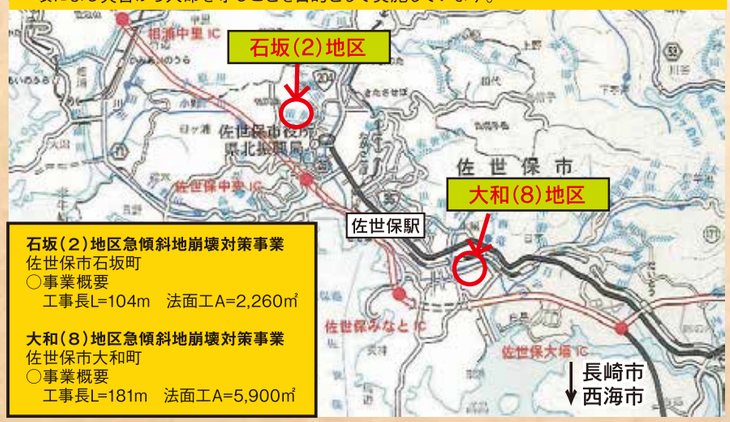
ジュゴゴゴゴォ、急傾斜地の現場には連続的にコンクリートを吹き付ける音が響いていた。急傾斜地とは、30度以上の傾斜がある土地のことを指す。急傾斜地は、地震や大雨の際、土砂崩れのリスクが少なからずあり、今回私はその災害リスクを減らすために行われている佐世保の急傾斜地崩壊対策事業の現場を訪れた。

現場の作業手順は、まず崩壊する恐れがある傾斜地に生えている木を伐採し、次に大地に張った木の根や草を除去し、最後に法面を作るというもの。急傾斜地の対策工事を行う場所は、作業スペースを広く確保できないことが多く、重機も入れないことが多いそうだ。今回の現場も重機を使えず人の手で木を切り、丁寧に根を除去していた。傾斜がきついこともあり、時にはロープで体を結び作業をしていた。

急傾斜地の施工は特殊作業なため、職人さんもあまり多くないという。だからこそ職人さんたちに事故が起きないよう他の現場以上に緊張感があると現場監督は語っていた。

そう、替えのきかない職人の技によって「坂の町」は守られているのだ。

長崎県は、佐世保市を含め急傾斜地が多い「坂の町」であることに加え、台風や豪雨に見舞われやすい気象条件であり、土砂災害が発生しやすい環境にあります。
急傾斜地崩壊対策事業は、斜面崩壊を防止する施設の設置等を行うことによって、斜面崩壊による災害から人命を守ることを目的として実施しています。



石坂（2）地区急傾斜地崩壊対策事業
佐世保市石坂町
○事業概要
工事長L=104m　法面工A=2,260㎡

大和（8）地区急傾斜地崩壊対策事業
佐世保市大和町
○事業概要
工事長L=181m　法面工A=5,900㎡

小島健一
【見学家】土木工事現場、産業遺産や工場などを一般向けにWEBや書籍、などで紹介。2011年10月から3年間、長崎の離島「池島」で地域おこしを行い、長崎大学の研究員を経て、現在は鹿児島の入来麓武家屋敷群で地域振興の芽を探している。著書に『社会科見学に行こう！』、『ニッポン地下観光ガイド』などがある。